

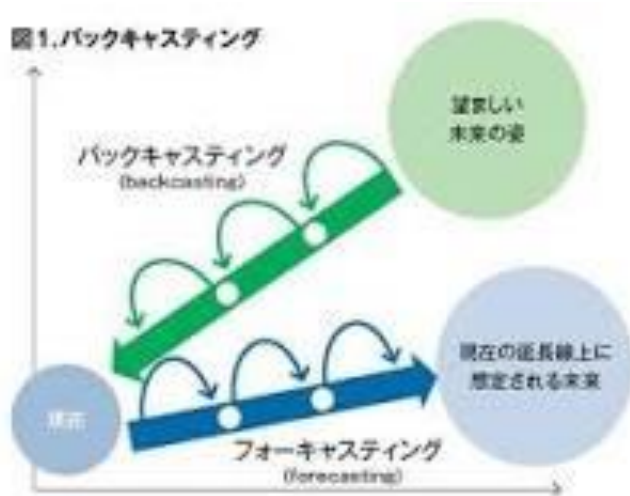
バックキャスト

- ◇ 2015年9月の国連サミットでSDGs というものが採択されました。SDGsとは「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」の略称です。これは、SDGs (エス・ディー・ジーズ) と読みます。これは、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標なのです。これには、17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されていますが、ここでは割愛します。

この採択以来、バックキャスト (backcasting) といわれる発想法がよく使われるようになりました。これは、未来を予測する際、目標となるような状態を想定し、そこを起点に現在を振り返って今何をすべきかを考える方法で、いわば未来からの発想法のことで、10年、20年先の長期経営ビジョンを作成するケースが多いということです。

この言葉と対をなすのがフォアキャスト (Forecasting) といわれるもので、現状分析や過去の統計、実績、経験などから未来を予測する方法です。これは、現在を起点として考えるので、台風の進路のように目指す方向がその都度変わり、遠い目標が定まりにくいとも言われています。

別の言葉で言えば、フォアキャストは現状を考えた改善的なアプローチ、バックキャストは創造的破壊を生み出すアプローチともいえます。



- ◇ このバックキャストとフォアキャストという発想法ですが、学級での取組を考える際に使えるものではないかと思えます。例えば、目標設定はバックキャストで、具体的なアクションプランはフォアキャストでというように相互補完的に使うということです。

例えば学級目標。これは、いろいろな人の願いをもとに、1年後に目指したい姿をみんなで考えます。そして、そこに到達するために、一人ひとりが自分なりの取り組み方を考え、自己決定していきます。これって、まさしくバックキャストの考え方ですね。また、一人ひとりの取り組み方が決まったら、現在の自分の状況から、具体的な改善策を考えてスモールステップ式に取り組んでいくというわけです。これって、フォアキャストの考え方ですね。

このように、2つの考え方で学級目標を考えていくことも大事な事なのかなと思った次第です。